

## 組織づくりは みんなの力で

— 婦人部活動が 地域の中で大きくなる —

寄島町漁協婦人部  
部長 川崎京子

### 1. 地域と漁業の概況

私の住んでいる寄島町は、県の西南部に位置し、人口7,200人で水島灘に面した風光明媚な町である。寄島町は昔から漁業の盛んな町で、なかでもガザミの漁獲量は県下でも一番多いことから、町の魚を『ガザミ』と定めている。また、町のキャッチフレーズを『海と魚と瀬戸大橋の見える町』としており、観光漁業としても穴シャコ釣り、潮干狩、海と魚の祭典など海を生かした盛大なイベントも行われている。町の三郎島へは年間約2,000名がキャンプに、6,500名程度の人が潮干狩に訪れ、その数は年々増加している。

### 2. グループの組織と運営

私たちの婦人部は平成7年6月に結成された。部員数は100名で、役員は5地区から運営委員22名を出して、その中から部長1名、副部長3名、会計監事2名を選出している。運営については、一人年間1,000円の会費と、朝市の売上金、干し魚等の加工販売手数料で賄っている。更に初年度として町、組合からの助成金、寄付金などがある。

### 3. 実践課題の選定と動機

私たちの婦人部はやっと1年半が経過した。婦人部設立には、私たちはもちろんのこと漁協、町、家族の暖かいご指導と励ましが大きな支えとなり、これが形となったものである。

みんなが応援してくれた、みんながやっといこうと力を出した・・・こうして私たちの婦人部は第1歩を踏み出した。

設立までの経過をふりかえてみると、私たちの先輩が今から10年程前、婦人部設立に向けて努力された時期があった。しかし、町の中には農協婦人部、地域婦人会があってそちらとのあつれきもあり止むなく設立を見送るという経過があった。そして、2年前、関係者の呼びかけもあり県漁婦連の総会にオブザーバーとして参加してみて、『ああ、私たちはみんなに出遅れてしまった、もっと前向きにならなければ・・・』と出席者全員が痛感した。漁業の町として栄えるためには、女性の持つ役割は大きい、そのためにも婦人部づくりが必要であると思つた。総会からの帰り、早速、組合長さんに報告すると共に「婦人部を作って、活動したい」ことを話した。後で組合長さんは「婦人部設立の機を見ていた。設立してみて組合員と漁協自体の協力体制ができ、組合事業への協力も得られ非常に喜ばしい。町行政からも大いに参加して頂きたいとの要請もあります。」と話されていた。

### 3. 実践活動の状況とその成果

また、私たちは町へもたびたび足を運んだ。町の担当課でも基幹産業である漁業には強い関心を持っており、婦人部設立には町も出来るだけ応援したいとも言ってくれた。また漁協では、設立するための準備として地区のまとまりをよくするために、組合管内5地区で、地区の活動費となる事業収入の道を検討してくれた。一つの地区では港の前の旧市場の使用目的を変えて頂き、漁業者あるいは遊漁者の駐車場として、その管理料を婦人部の収入にあてた。また、別の地区でも駐車場として管理してその管理料を頂き、地区での活動費とした。こうすることで、それぞれの地区ごとに内部からのまとまりと仲間づくりを作っていた。

そして、いよいよ寄島町婦人部の誕生。平成7年6月27日、総会には町長さんをはじめ、関係者のみなさんが駆けつけてくれ、盛大に行うことができた。県下で2番目に大きい婦人部となり、責任の重さとやらなければならないというファイトがわいてきた。設立総会終了10日後、設立記念イベントとして町のキャッチフレーズである『海と魚と瀬戸大橋の見える町』を生かして『浜の母ちゃん手作り朝市』を開催した。女性の手で寄島の魚を広くアピールするためにどうしたらいいか、一部の人だけの朝市にならないよう、一人でも多くの人々が積極的に参加できるよう、ここでも5つの地区からのまとまりを大事にして、それぞれの地区からの「手作りコーナー」を設け、巻き寿司、赤飯、いなりずし、かしわ餅、ままかりずしを持ち寄り、その売り上げ収入は地区ごとの収入に当てた。こうすることも全員参加への意欲につながる一つの方法だと思った。また、朝市の開催はお父さんをはじめ家族の応援にも力強いものがあつた。お父さんたちは漁船を出して、その魚は全て提供してくれた。「朝市を大豊漁」にしてやろうという思いやりである。お陰で魚はいっぱいだった。「浜の母ちゃん手づくり朝市」のPRには手作りのチラシを周辺市町村に配布したり、組合長さんが関係機関や新聞社へもお願いして下さった。そしていよいよ当日、予想をはるかに上回る消費者のみなさんが来て下さり、盛況の内に終わることができた。こうして設立記念の第一弾として『朝市』は、組合役員さんを始め、組合員みんなの協力を受けて、部員全員、家族ぐるみで作り上げることが出来た。

次に、設立に当たり、漁協婦人部という組織を1人1人が認識できるようなものを作ろうとの話しが持ち上がり、私たちは部員全員の普通貯金の通帳を作った。そしてその中に朝市で得た収入から1人、3,000円を入金して全員に配布した。1年半が経過した今この通帳は自分名義の通帳として、その額も減ることはなく、当初に比べると全体で20%増額している。

今まで自分名義の通帳の無かった人も、きちんと自分の財産として大切にしていきたいと言っている。また、通帳を作ったことで個人の年金の振込や支払いの振替にも組合利用が増えた。このことは、組合と婦人部員とのつながりを一層強くしたように思う。

次に、私たちは、みんなの協力でできた婦人部だから婦人部員相互の交流と仲間づくりを大切にしたいと思った。私が以前入院している時、病室で高齢の方が楽しそうにダンスをしている姿をテレビで見た時からこれはいい・・・私もダンスを習いたいと思った。退院後、早速、町の公民館活動の中に「フォークダンス教室」の講座を開講してもらった。

最初は私を含めて無理やり10人程ではじめたダンスも楽しいから次第に仲間もふえて婦人部員も40名位になったころ、農山漁村婦人の日のアトラクションで初めて人前で披

露して大変喜ばれた。このことがきっかけとなって、寄島町の老人の日や福祉の推進大会など出番も多くなり、その後も福祉施設へボランティアの慰問にも行っている。赤い靴も揃え、ダンス用のスカートも手作りした。かわいりボンをつけるともう気分は最高である。町民大会では町ぐるみで踊ることができ、今では「漁協婦人部のフォークダンス」としていろいろな方が声をかけてくださるようになった。今年の春からは町内の婦人団体や、小学校、保育園の先生、PTAのお母さんたちからも教えてほしいとの依頼もあって、仕事を終えてから夜講習に出かけたこともある。フォークダンスで新たなお友達もできた。

遠くの婦人団体との交流会でもこのダンスをみんなで踊ればそれだけで心のふれあいができる。フォークダンスは仲間づくりに大いに役立っている。また、普及所の企画で、昨年、今年と木になる柿の生産グループと花の生産グループそして私たちのカキ生産グループが一同に会して『カキカキサミット』と銘打った大会を開いている。この会では、新しい技術の紹介、あるいは柿、カキを使った昼食会や製品の交流など楽しい交流会になっている。さて、部員の相互信頼を深めるためには、まず役員お互いの信頼作りが大切である。そのために私たちは行事がある度に打ち合わせ会はもちろんのこと、反省会をしっかりとこなしている。やりっぱなしにしないこと、必ず各地区からの委員22名が集まって、意見を出し合い、次回の行事にそなえている。そのため去年は7回の役員会を行なった。

## 5. 波及効果

さて、私たちの婦人部も2年目となった。婦人部設立には遅れをとったけれど、多くの方々のご支援を頂いた。何といたっても組合長さんを初め組合員の皆様、そして家族の暖かい協力、関係機関のご指導のもとに設立されたことは私たち婦人部に大きな安心と豊かな気持ちを与えてくれた。みんなで開催した朝市で寄島の名は以前にも増して多くの人に「漁業の町」としての印象を強くしていった。そしてダンスを通して新たな仲間や技術の交流を深めることもできた。さて、私たち婦人部はこの4月から米の小売り販売を組合の一角をお借りして行っている。これも設立1年を迎えてもっと婦人部として地域のみんなに何かをしたい、組合がいつでも人が集まってわいわい話せる・・・そんな場所になってほしい、組合はみんなの中心となる場所にならないと・・・そんな思いもあって始めた。この活動は婦人部の収入源として、みんなのおしゃべりコーナーとしても好評を得ている。

## 6. 今後の活動計画と問題点

はじめてのことばかりが続いた1年だったが、組織づくりができたことは嬉しいことである。土台ができた今、これから漁協婦人部の立場を十分生かした活動をしていきたいと思っている。前にも述べたように寄島町は漁業の町、これからも海を生かした観光事業が行われるであろう。その中で、私たちは朝市を継続実施していきたい。そのためには朝市の運営企画づくりもきちんとしていき、それに付随した『手作り料理』や『加工品づくり』の勉強と普及にも取り組んでいきたい。頑張りたいとおもっている。また、高齢者が増えていく漁村の中で、高齢者の持っている知恵や技を生かした特産品づくりを行い、交流とふれあいのある地域作りをみんなで将来に向けて考えていかなければならない問題として、今から私たちのできるところで取り組んでいきたいと考えている。人が組織を作ると言われている。一人ではできないことも組織があればこそ大きな課題も乗り越えられる

